前進座公演

出前芝居

くずゝの屑屋でござい

―古典落語「井戸の茶碗」より―

心がほっこり
親子三代
ご一緒に
小学生でも
楽しめます

二百文で預かった仏像からはじまる
江戸時代の ちょいといい話。
正直な屑屋さんと、正直な人々が
奇跡 を起こす！



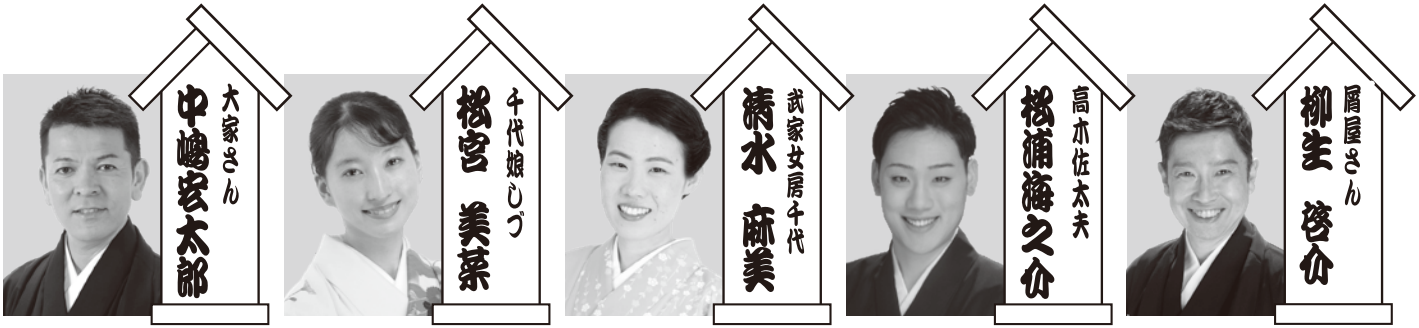








台本＝鈴木 幹二
演出＝
装置＝高木 康夫
照明＝田中 祐太
音楽＝杵屋 邦寿
制作＝椛山麻季子



台本・演出＝鈴木幹二

くず〜い 屑屋でござい

出前芝居

ー古典落語「井戸の茶碗」よりー

あらすじ

「くず〜い 屑屋でござい」と大声を出しながら江戸の長屋を回るのは、正直が取り柄の働き者屑屋の清兵衛さん。

ある日いつもの長屋で、

「屑屋さん、ちょっと」と声をかけたのは、母一人娘一人で

その日の米にも困る武家女房千代と娘しづ。

くらしの足しに家に代々伝わる仏像を買ってほしいと頼まれた屑屋さんは断ることが出来ず二百文で買い取ります。

これより高く売れたときには、

そのもうけを半分にと約束した屑屋さん。

細川屋敷の前を通ると

若侍高木佐太夫の目にとまり

すぐに三百文で売れました。

ところが、仏像の中から五十両という大金が…

返そうとする佐太夫と受け取らないと言う千代

意地を張り合う武家同士に翻弄される屑屋さん。

見かねた大家が口をきき、

金を受け取る代わりにと

千代が渡した茶碗が実は…

ついには細川のお殿様まで

巻き込んでの大騒動に…

さて、どう折り合いがつくことやら



おしばいのまえに



電車もない、自動車もない、冷蔵庫も洗濯機もなければ、コンビニもスーパーもなかった「江戸」の町。せまい「長屋」に肩よせあった江戸の人たちは、どんなものでも大切にトコトン使いきりました。目から鱗の江戸の生活。

江戸の暮らしってどんなの？

さァ一緒にのぞきこ出かけましょう。



【前進座】

１９３１年（昭和６年）に青年歌舞伎俳優らによって創立。本年95周年を迎えました。

歌舞伎のほかに、本格的な文芸歴史劇、青少年向け音楽劇などを手がけ、幅広い活動で知られています。

今日においても都市大劇場から各地小中学校の体育館まで、健やかで楽しい創造を続けています。